別表第１（第５条関係）

事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

評価対象年度	平成　20　年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	花いっぱい運動推進事業費				
担当課係名	生涯学習　課	生涯学習　係	作成者	小松　誠一	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ
	基本計画	生涯学習の推進と社会教育施設の整備			
	主要施策	花いっぱい運動の推進			96
予算費目	一般　会計	10 款　教育費	5 項　社会教育費	1 目 社会教育総務費	
事業期間	平成　年度 ～ 平成　年度	新規／継続の区分	継続		
性質区分	☑ 市民サービス	□ 公共事業	□ 施設維持管理	□ 補助金	□ 内部管理
根拠法令等	無				
事務区分	☑ 自治事務	□ 法定受託事務			
運営方法	□ 直　営	☑ 直営（一部民間委託）	□ 民間委託(全部)	□ 補　助	

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	国道１０５号を利用する市民、観光客、中・長距離ドライバー等
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	花いっぱい運動を通じて花や自然を慈しみ、家庭と地域の融和を図りながら心通う地域社会を目指し、訪れる人々を花でもてなすことを趣旨とする。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	７月第１日曜日、国道１０５号沿い９．２㎞（西木町堂村～西荒井間）にマリーゴールド約５万本を植栽する。また、集落、学校、保育園各施設内に４万本配布し植栽をしている。

【事務事業の推移】

	項目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績
効果	活動指標	マリーゴールド(国道植栽分) マリーゴールド(各施設植栽分)	目標	本	90,000	90,000	90,000
			実績	本	90,000	90,000	90,000
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%
	成果指標	マリーゴールド （イエロー・オレンジ）	目標	本	90,000	90,000	90,000
			実績	本	90,000	90,000	90,000
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%

	項目		総事業費	18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)
投下コスト	事業費（人件費を除く）(A)			3,413	3,154	3,304
	人件費 (B)		—	1,963	2,018	1,981
		職員数	—	0.25	0.25	0.25
		職員平均人件費	—	7,853	8,071	7,925
	(A)＋(B)　投下コスト			5,376	5,172	5,285
	財源内訳	国庫支出金		0	0	0
		県支出金		0	0	0
		地方債		0	0	0
		その他		0	0	0
		一般財源		5,376	5,172	5,285
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	60	57	59
	市民1人当たりのコスト(円)		—	169	165	170

【事務事業の今までの成果】

毎年、５月上旬に道路花壇施設整備事業をシルバー人材センターと委託契約を結び、除草、床づくり育苗、後片づけまでお願いしている。また、２農家へ一斉植栽の苗（正植用）と（補植用）を育苗し一斉植栽の７月第１日曜日に西木地区住民、団体、職場、小学生、中学生の方々からご協力をいただき、延べ９．２㎞にマリーゴールド（イエロー、オレンジ）を植栽し、花が咲く頃には、国道１０５号を行き交う人々を和ませている。

【事務事業を取巻く環境】

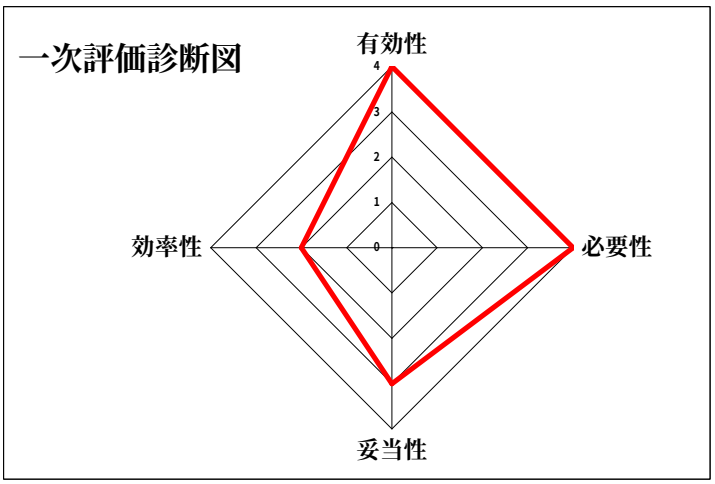
国・県・他自治体の動向	現在は、仙北市の単独事業である。他自治体でも道路沿線への植栽・プランターの設置は見られるが、市民が直接花壇に植栽し、しかもこれだけの規模となると他自治体にはないものと思われる。
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	住民の多数の参加と、事業の継続を要望。

【一次評価】

判　定	事業の方向性		判定に至った理由
B２	A	現状のまま継続（実施）	西木町で開催している事業であるが、現在、地元の育苗委託農家との諸連絡や事業関連の移動時間など、地元で行うことで削減される項目が出てくると思われる。
	B１	見直しの上で継続（拡大）	
	B２	見直しの上で継続（手段改善等）	
	B３	見直しの上で継続（縮小）	
	C１	大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C２	大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C３	大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E	終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がＢ～Ｄのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）
現在、住民が地域活動の一環事業として、植え付け作業・その後の管理等花を通じて地域づくり、環境美化、人と自然とのかかわりによるゆとりと安らぎの実感できる花いっぱい運動として行ってきた。 今後については、財源負担が市単独事業のため植栽面積の選定等の内容を精査し、地域に根ざした地元事業として推進していきたい。

【二次評価】

判　定	判定に至った理由
B２	市の単独事業として実施してきていますが、真に市が担うべき事業であるかという点や地域との役割分担のあり方についての検討を踏まえ、事業の実施手法を見直しながら継続する必要があると考えます。